

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	環境保全推進事業(No.50)				
予算等事業名	環境保全推進事業							
目的	二宮町の自然、社会環境を生かしながら、将来に残したい環境の保全や創出に向けて、町民・事業者・町が一体となって取り組むため、環境基本計画の進捗状況等を把握、評価し、計画を推進する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会の運営 墓地等の経営許可権限移譲可能性検討 							
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例 墓地、埋葬等に関する法律							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		墓地等の検討は今後新たな経費が発生することが想定されるため、削減は困難である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		環境基本計画は対象事業が多いため、事業の精査・統廃合等を検討し効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 環境基本計画は中期実施計画において、事業が精査され一部事業を統廃合するなど効率化が図られている。 墓地の経営許可等の権限移譲については今後の検討委員会の進め方の検討を要する。		

総合評価

実績	環境審議会を2回実施し、第2次環境基本計画実施計画(前期計画)における過年度の進捗状況及び評価や、平成28年度からの中期計画に関する環境審議会からの意見のとりまとめを行った。				
中間評価との相違点	墓地の経営許可等の権限移譲については、検討会を設置して引続き検討を進める。				
事業指標(数値指標)	環境基本計画実施計画に掲げる施策を確実に推進する(100%)				
中期(28年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実施計画の進捗率(過年度実施計画事業に対する評価) ※過年度分実施計画進捗率の平均	
	77%				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		275	255				
財源内訳	一般財源	275					
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 二宮町環境基本条例の基本理念等を踏まえ、策定した環境基本計画を推進する必要があるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 将来に残したい環境の保全や創出に向け、町が主体となって環境基本計画を推進する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 環境審議会による評価を行ったところ、一定の成果を得ることができた事業が9割を超えているため	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 職員が実施計画の進捗状況等のとりまとめを行うことで、最低限の費用で評価等を行っているため	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 環境基本計画実施計画事業に対する環境審議会からの意見等を取りまとめることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	環境基本計画の推進に向け、町民・事業者・町が一体となって二宮町の自然・社会環境を生かしながら、将来に残したい環境の保全や創出に取り組む必要がある。 今後も進捗状況や成果を把握し、効果的な進行管理を継続的に実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	環境基本計画は町の基本施策であり、環境審議会を通じて取組を進める必要がある。		
今後の方向性	環境審議会の意見を取りまとめながら後期実施計画の策定を進める。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.51)				
予算等事業名	美化推進事業							
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸ごみゼロキャンペーンの実施 ・美化財団負担金(海岸清掃) ・美化活動団体への補助 							
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		海岸ごみゼロキャンペーンは、傷害保険料等の必要最低限の費用で実施しているため。また、美化財団負担金は、国庫補助の確保が例年困難であるため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		キャンペーン同日に各地区で地域美化清掃を一斉に行う等、効率化を図っているため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 継続的な海岸ごみゼロキャンペーンの実施により、住民の環境意識の高揚が図られている他、葛川や地域美化清掃の実施により、町の美化が推進されている。							

総合評価

実績	ごみゼロキャンペーンの実施(平成28年6月4日)					
中間評価との相違点	—					
事業指標(数値指標)	参加者数					
中期(28年度)目標値	700人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より		
	504					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		764	764				
財源内訳	一般財源	347	339				
	国庫支出金						
	県支出金	417	425				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 海岸だけでなく、二宮町の美化運動推進のため、実施していく必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 美化運動として、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 海岸清掃に504人が参加し、美化運動の中核となっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 参加者の保険費用のみで実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 県、団体、住民との連携を大切にしながら、二宮海岸の保全と魅力の向上のため、引き続き事業を実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	海岸には、バーベキューごみ、空き缶、ビン、樹脂類などポイ捨てされたごみが多くある。ゴミゼロキャンペーンなど美化運動を推進し、引き続き、啓発が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ごみゼロキャンペーンでの啓発や、各種団体等による美化活動により町の美化意識向上につながっている。		
今後の方向性	今後もごみゼロキャンペーンによる啓発及び美化活動の支援を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.51)
予算等事業名	動物の保護管理事業		
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・狂犬病予防注射の実施及び促進 ・有害鳥獣運搬処理 ・害虫対策 		
根拠法令・条例等	狂犬病予防法 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 犬の登録事務手続き等に関する規則		
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他		

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	犬の登録に使用する物品を県内市町村と共同で購入する等、既に経費を削減しているため、削減は困難であるため。 また、有害鳥獣による農作物等の被害の増加により捕獲頭数が増加傾向にあるため。

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	狂犬病予防法など法律に基づく事業を実施しているため、効率化は困難である。 有害鳥獣による農作物等の被害の増加により捕獲頭数が増加傾向にあるため。

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 狂犬病予防注射促進や有害鳥獣運搬処理により、環境衛生の向上や農作物被害の防止が図られている。	

総合評価

実績	狂犬病予防注射 ・登録頭数 1,855頭 ・注射済み 1,577頭 ・猶予107頭 有害鳥獣 捕獲数34頭 (内訳 イノシシ 10頭、ハクビシン 14頭、タヌキ 7頭、アライグマ 3頭)		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	病気等の理由による猶予を除き狂犬病予防注射を確実に実施する(100%)		
中期(28年度)目標値	100%	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	90.2%		
狂犬病予防注射の接種率 ※狂犬病予防注射済頭数 ÷ (登録頭数 - 猶予頭数)			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		759	663				
財源内訳	一般財源	209					
	国庫支出金						
	県支出金	165					
	その他	385					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき事業を実施する必要があるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 狂犬病予防法及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき事業を実施する必要があるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 国内において、1956年の6頭を最後に狂犬病の報告がないため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 物品購入は、県獣医師会による共同購入により、最低限の費用で購入しているため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 狂犬病の予防により公共の福祉の増進を図るとともに、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化により生活環境の保全を図ることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引続き、狂犬病を予防し、撲滅することにより公衆衛生の向上、公共福祉の増進を図り、また鳥獣の保護及び狩猟の適正化を図ることにより、生活環境の保全を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	狂犬病予防注射促進事業により、狂犬病の予防が図られている。また、有害鳥獣による農業・生活被害の防止が図られている。		
今後の方向性	今後も狂犬病予防注射を促進するとともに、有害鳥獣の捕獲等により農業・生活被害を防止する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	美化推進・動植物保全事業(No.51)				
予算等事業名	公害防止対策事業							
目的	生物多様性の保全のため、環境意識の高揚を図ることを目的としたゴミゼロキャンペーンを実施する。また町の中心を流れる葛川の美化を図る。 住環境向上のため有害鳥獣対策の実施及び狂犬病予防注射の促進を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・河川水質測定 ・地域要望環境測定 							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	中村川の調査について、県が実施する調査結果から河川水質の状況を把握できるため、調査箇所数の減による経費の削減を検討できる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	基本的に定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 継続的な河川水質調査による測定により、町の環境状況を把握できている。 28年は4回の実施予定のうち2回を計画通りに実施して。		

総合評価

実績	町内4河川8地点で、年4回水質調査を実施 地域要望分については、地域要望がなかったため、未実施		
中間評価との相違点	-		
事業指標(数値指標)	BODの環境基準達成率(測定値が環境基準地内の地点数/測定値数)		
中期(28年度)目標値	100%		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	97%		
環境基本計画実施計画より			

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		437	382				
財源内訳	一般財源	437	382				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 河川等の有機物汚染の代表的指標であるBODが年々改善されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の調査項目に絞り、実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 環境調査は、毎年確認することが重要である。水質については、年々下水道の普及等により改善されている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引き続き、環境調査を実施し、町の環境状況の把握を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	水質測定により町の環境状況を把握できている。		
今後の方向性	今後も引き続き、環境調査を実施し、町の環境状況の把握を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課								
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり							
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	ごみ処理広域化推進事業(No.52)							
予算等事業名	ごみ処理広域化推進事業										
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、ウッドチップセンターの施設運営を行う。										
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルセンター整備事業負担 ・広域ごみ処理費負担 										
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 ごみ焼却施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約										
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		事務委託に伴う他市町への負担金のため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		広域処理の開始や施設稼働に伴い協議を要する案件は減少してきているが、現在、整備中のリサイクルセンターや、運用開始に伴う新たな課題対応には必要最低限の調整が必要となるため			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、循環型社会形成に向けた各種施設整備運営や処理体制が図られている。			

総合評価

実績	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化に伴い、広域施設に係るリサイクルセンターの整備運営やウッドチップセンターの施設運営を行っている。		
中間評価との相違点	-		
事業指標(数値指標)	-		
中期(28年度)目標値	-		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	-	-	-
他市町が行う施設整備等に対する負担を行うものであるため、事業指標は設定できない。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		279,998	102,377				
財源内訳	一般財源	87,888	0				
	国庫支出金						
	県支出金	16,510	16,510				
	その他	175,600	85,867				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制を確立するために必要な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 自治体間による協力が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 広域処理を開始した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 広域処理施設の建設、運営にて効率的に処理がなされている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、事業推進を行った。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	安定的な広域処理のため、平塚市及び大磯町と必要且つ十分な連絡調整を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	1市2町によるごみ処理広域化により、ごみ処理の体制が整備されている。		
今後の方向性	安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、ごみ処理広域化推進会議等を通じ連絡調整を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	ごみ処理広域化推進事業(No.52)	
予算等事業名	ウッドチップセンター運営事業				
目的	平塚市及び大磯町とのごみ処理広域化を推進するため、他市町の広域施設に係る費用負担を行う。また、ウッドチップセンターの施設運営を行う。				
内容	・施設運営				
根拠法令・条例等	一般廃棄物処理に係る事務事業の広域化に関する基本協定 剪定枝資源化施設の整備運営に関する事務の事務委託に関する規約				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	15年間の長期契約で運営委託しているため、大幅な削減は困難。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	現時点で出来る限り効率化を図っており、今後の大幅な効率化は難しい。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 SPCによる施設運営が適正に行われており、剪定枝の資源化が図られている。				

総合評価

実績	搬入量:1469.85t、処理量:1435.23t				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 SPCによるウッドチップセンターの円滑な管理運営により、剪定枝の資源化を行う	
	-	-	-		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		69,694	67,011				
財源内訳	一般財源	6,400	5,650				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	63,294	61,361				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 ごみ処理広域化の施設であり、一般廃棄物である剪定枝の処理は自治体の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物である剪定枝の処理は自治体の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 搬入された剪定枝を適正に資源化処理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 15年間の長期契約で運営委託しており、費用の大幅な削減は難しい。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 SPCによる施設運営が適正に行われており、剪定枝の資源化が図られている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引き続き、SPCによる施設の適正な運営により、剪定枝の資源化に取り組む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	1市2町によるごみ処理広域化に係る剪定枝資源化施設の運営が適正に行なわれている。		
今後の方向性	剪定枝資源化施設の運営によりごみの減量化・資源化を進めるとともに、温室効果ガスの排出を抑制する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)				
予算等事業名	不法投棄防止事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄パトロールの実施 ・不法投棄処分 ・不法投棄防止用看板設置 							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		不法投棄防止効果が期待される「鳥居型掲示板」の自己製作により、看板消耗品の減による経費の削減を検討できる。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		臨時雇を雇用してのパトロール回数を必要最低限に絞り実施している他、不法投棄の状況によっては、職員による現場確認、回収等が必要となる状況もあるため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 不法投棄物の撤去及び防止啓発により、生活環境の保全が図られている。							

総合評価

実績	不法投棄パトロールを52回実施した。							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	不法投棄回収量							
中期(28年度)目標値	2.8t			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より				
	1.54t							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		793	702				
財源内訳	一般財源	793	702				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 不法投棄は不法投棄した者が処分すべきだが、投棄者が特定できない場合は、町で処分をせざる得ない。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境保全のため、不法投棄物の撤去等を実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、更なる不法投棄物の誘発に対する一定の予防効果がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 基本的には職員対応で実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 不法投棄物を撤去することで、生活環境の保全につながる。また、更なる不法投棄物の誘発に対する一定の予防効果があるため、今後も引き続き実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	不法投棄ではないが、分別・収集日の変更により、ごみの出し間違い等による不適正排出の増加が見込まれる。 今後、地域環境推進員と協働し分別方法の徹底を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	不法投棄パトロールや不法投棄物の撤去により、不法投棄の誘発を防止できている。		
今後の方向性	不法投棄を未然防止するための方策を検討する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)		
予算等事業名	ごみ減量化・再利用事業(3R・3S推進運動)				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化推進協議会の開催 ・地域環境推進員会議の開催 ・カラスネット配布 ・指定ごみ袋購入 ・ごみ減量化施策の啓発等 ・大型生ごみ処理機維持管理 ・生ごみ処理機の普及啓発(補助の実施) 				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		29年度に製品保証期間を終える大型生ごみ処理機(エクレール二宮)の廃止検討により、維持に係る経費の削減を検討できる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		地域と連携しての回覧の配布や、フェイスブックの活用により、各種の啓発に係る事務量を地域説明会等を実施する場合と比較し、効率化できる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 3R・3S推進運動の促進に係る各種の普及啓発により、ごみの減量化及び資源の再利用化に向けた促進が図られている。				

総合評価

実績	ごみ減量化推進協議会 2回、地域環境推進員会議 2回を実施した。 ごみとなるようなものを無駄に買わないこと(発生抑制:Reduce)の啓発を行う。 カラスネットの配布 117枚				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	1人1日当たりのごみ排出量				
中期(28年度)目標値	831g/人・日			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より	
	843g/人・日				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		12,838	9,391				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、快適な生活を確保する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 水切りキャンペーンを実施することで減量化につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 啓発など費用をかけず地区と連携して実施した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 水切りキャンペーン等の各種啓発事業の実施により、減量化を行い、今後も引き続き、3R・3Sを推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、ごみの分別・収集日の変更となったため、新しいごみの分別方法の徹底を広報紙等を活用し、地区と連携して推進していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	経費削減や温室効果ガス発生抑制の観点から、ごみ減量化に向けた各種啓発事業が必要である。		
今後の方向性	更なるごみ減量化の取り組みを行う必要がある。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)		
予算等事業名	一般廃棄物処理事務事業				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物処理基本計画策定 ・し尿処理券の販売等 ・ごみガイド等の印刷 ・ごみ置き場の管理 ・町村清掃行政協議会(会議、研修) 				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		一般廃棄物を処理するために必要な事務に係る費用であるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		一般廃棄物を処理するために必要な事務であるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 一般廃棄物処理事務事業の実施により、廃棄物の適正な処理が図られている。				

総合評価

実績	ごみの出し方ガイド、ごみのスケジュールシールなどを作成した。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	—				
中期(28年度)目標値	—				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	一般廃棄物を処理していくための事務費	
	—				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,321	3,181				
財源内訳	一般財源	3,319					
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	2					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費であるため。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物を処理していくための事務費で、廃棄物は適正に処理がなされており、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	一般廃棄物を処理していくための事務費であるため、今後も継続していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	一般廃棄物処理は適正になされており、生活環境の保全及び公衆衛生の向上が図られている。		
今後の方向性	一般廃棄物を処理していくための事務費であるため、今後も継続していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)				
予算等事業名	じん芥収集事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	・じん芥収集委託(廃棄物の収集)							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		委託業者の一般競争入札による選定により、市場の競争効果による経費の削減を検討できる。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		収集時における作業員の対応マニュアル化等により、統一的な対応や事務を効率化できる。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 一般廃棄物の確実な収集運搬により、廃棄物の適正な処理が図られている。							

総合評価

実績	8,692,873kgを収集し、処理施設等へ運搬を行った。							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	—							
中期(28年度)目標値	—							【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	適正な一般廃棄物の収集運搬				
	—							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		175,078	175,077				
財源内訳	一般財源	155,053	156,094				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	20,025	18,983				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、一般廃棄物の収集は市町村の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、適正処理することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物を適切に収集、運搬するための適正な費用となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物処理計画に従い、一般廃棄物を収集することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、収集日、分別方法を変更した。 適正に収集することで、生活環境の保全、公衆衛生の向上を図る必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	一般廃棄物の適正処理のため、委託による収集運搬が必要である。		
今後の方向性	今後も引き続き適正な一般廃棄物の収集を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)
予算等事業名	じん芥運搬処理事業			
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。			
内容	・じん芥運搬処理委託(廃棄物の運搬・処理)			
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		ごみ処理広域化により削減される見込みである。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		ごみ処理広域化により効率的なごみの運搬・処理ができる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 ごみ処理広域化によりごみの適切かつ効率的な処理処分ができています。			

総合評価

実績	ごみ総処理量 8,693t(処理ベース)			
中間評価との相違点	-			
事業指標(数値指標)	-			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	一般廃棄物全体の円滑な運搬・処理
	-	-	-	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		48,202	43,924				
財源内訳	一般財源	34,139					
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	14,063					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分は市町村の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 一般廃棄物を滞りなく適切に運搬、処分している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 一般廃棄物が適切に運搬、処分されるための適正な費用となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬及び処分を適切に実施できた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町としての責務として、今後も適切に一般廃棄物を運搬、処理する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ごみ処理広域化及び処理委託により適正な一般廃棄物の処理ができています。		
今後の方向性	今後も適切に一般廃棄物を運搬、処理するため、広域及び委託業者と連絡調整を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)	
予算等事業名	じん芥受入分別事業				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	・持ち込みごみ等の分別作業等委託(分別・搬出)				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 二宮町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		安全かつ適正に作業を実施するためには、現状維持が必要。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		平成27年度からのごみの分別変更への対応及び効率化を図っており、現在より大幅な効率化は難しい。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 ごみ処理広域化による収集区分の変更後も廃棄物の適正な処理が図られている。				

総合評価

実績	ごみ持ち込み件数 5,130件(家庭系 4,908件、事業系 222件)				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	持ち込みごみ等の受入・分別を円滑に行う	
	-	-	-		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		22,992	22,382				
財源内訳	一般財源	4,740					
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	18,252					

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 一般廃棄物の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 ごみの受入分別作業は、町の責務である一般廃棄物の運搬処理と直結している。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 持込みごみを適正に受入、分別している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 適正、安全に受入、分別するために必要な費用で実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 費用を抑えながら、適正・安全に事業が実施できている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ごみ処理広域化に伴い、従来の分別区分より変更された部分もあったが、それに対して十分対応している。今後も、引き続き適正・安全に実施できるように取り組む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	持込ごみ適正に処理できている。		
今後の方向性	今後も一般廃棄物の適正処理を継続する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)				
予算等事業名	し尿処理事業							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・し尿処理施設の維持管理 ・施設改修実施計画及び実施設計委託 ・施設改修工事 							
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。また、大規模改修を控え、必要最小限の補修にとどめており、運転においても節電を意識し、費用を抑えている。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		減少していくし尿汚泥に対し、効率的な運搬・処理を検討していく。また、改修計画については、現状に即した方法とし、効率化も含め検討する。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								A
	【説明】		し尿処理は放流水の排出基準に適合しており適切に管理がなされている。また改修について現状に即した計画の策定が進んでいる。						

総合評価

実績	汚泥受入実績 6078.6kℓ(生し尿 347.4kℓ、浄化槽汚泥 5731.2kℓ) し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類の測定を実施							
中間評価との相違点	-							
事業指標(数値指標)	し尿処理施設の水质、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率							
中期(28年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	放流水45項目、臭気1項目、ダイオキシン類1項目 (47/47=100%)				
	100%							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		40,472	39,162				
財源内訳	一般財源	39,498	38,297				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	974	865				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 生し尿及び浄化槽汚泥の処理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 受け入れた生し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 点検や補修を定期的に行うことにより、費用を抑えて維持管理している。運転においても節電を意識し、費用を抑えることができている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 し尿処理施設の円滑な管理運営ができている。測定結果も良好である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も引き続き、施設の円滑な運営に取り組む。また、施設の老朽化が進行しているため、施設の大規模改修をふまえた中で、計画的に補修、交換、工事等を行うことが必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	定期的なオーバーホール、修繕により施設の円滑な管理運営ができている。また運転時間の見直しにより節電ができている。		
今後の方向性	施設改修実施計画及び実施設計の的確な策定を行い、安定的かつ経済的な施設運営とする。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)				
予算等事業名	ごみ積替施設の維持管理							
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ごみ積替施設の維持管理 可燃ごみの外部搬出 							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		安全・適正な事業実施のためには現状維持が必要。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		効率を考慮して事業を実施しているが、現状以上は難しい。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 ごみ処理広域化による収集区分の変更後も廃棄物の適正な処理が図られている。			

総合評価

実績	可燃ごみ外部搬出量 5,483t			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
中期(28年度)目標値	—			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】 ごみ積替施設を適正に運転・管理し、安定した外部搬出を行う
	—			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		57,410	55,096				
財源内訳	一般財源	57,410	55,096				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 可燃ごみ搬出のためには、必要不可欠である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 一般廃棄物の運搬は町の責務である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出のため、必要な費用である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 可燃ごみの安定した外部搬出ができています。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き安定した可燃ごみの外部搬出を実施するため、適正な管理を行っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	可燃ごみの安定的な外部搬出ができています。また、臭気測定結果も良好であり周辺環境に配慮した施設運営ができています。		
今後の方向性	引き続き安定した可燃ごみの外部搬出を実施するため、適正な管理を行っていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	3R・3S推進事業(No.53)	
予算等事業名	最終処分場施設運営事業				
目的	循環型社会の実現を目指し、ごみの減量化・再利用化を推進するとともに廃棄物の適正処理を行う。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水質・ダイオキシン類の測定 ・浸出水処理施設の維持管理 				
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、神奈川県生活環境の保全条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	適正な最終処分場の維持管理のためには、現状維持が必要。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	今まで以上の効率化は難しいが、引き続き効率化も含めた維持管理を行う。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 最終処分場は放流水の排出基準に適合しており適切に管理がなされている。				

総合評価

実績	浸出水処理量(2974.60m ³) 最終処分場浸出水、放流水、地下水の水質、臭気、ダイオキシン類の測定を実施した。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	最終処分場の水質、臭気、ダイオキシン類測定における基準値適合率				
中期(28年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	放流水46項目、臭気1項目、ダイオキシン類2項目、地下水45項目(94/94=100%)	
	100%				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,167	3,672				
財源内訳	一般財源	4,167	3,672				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 最終処分場の維持管理は町の責務である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 同上	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 事業指標に対する目標値が達成でき、適正な維持管理ができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 浸出水量に応じた効率のよい運転を心がけている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 目標値達成のための維持管理を徹底しつつ、事業としては現状維持で実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き事業指標に対する目標値を達成するため、維持管理方法のチェック、必要に応じた見直し、関係者との連携などを徹底し、適正な維持管理をしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	放流水及び周辺地下水の測定結果も良好であり、適正な維持管理ができています。		
今後の方向性	今後も施設の適正な維持管理を継続する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり	重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	地球環境保全事業(No.54)	
予算等事業名	環境保全推進事業			
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習 ・緑のカーテン ・太陽光補助金(住宅リフォーム助成金にて対応) ・喫煙マナーの啓発 			
根拠法令・条例等	環境基本法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	地球温暖化防止に向けた取組みは、グリーンカーテンの消耗品等の必要最低限の費用で実施しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	県地球温暖化防止活動推進員を始めとした各種の環境団体の協力により、普及啓発に係る事務を効率化できる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 地球温暖化防止活動推進員や地域環境推進員との協働により生活環境の保全が図られている。			

総合評価

実績	グリーンカーテンを役場庁舎で実施 節電や自然エネルギー、地球温暖化防止に向けた啓発活動を実施 地域環境推進委員にて喫煙マナーの啓発			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	地球温暖化防止に向けたグリーンカーテンの設置箇所			
中期(28年度)目標値	2箇所		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より
	1箇所			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		25	20				
財源内訳	一般財源	25	20				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 グリーンカーテンや節電や自然エネルギーの啓発は、地球温暖化防止につながり町民への啓発につながり重要であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 グリーンカーテンなど町が実践することで、町民への啓発につながるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 グリーンカーテンや節電を行うことで、町民への啓発につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 グリーンカーテンを作成したりして出来る限り費用を抑えている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 グリーンカーテンや環境学習等を実施しているが、ハード面での自然エネルギーの推進も必要。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	<p>今後は、自然エネルギーの推進なども必要。</p>	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	グリーンカーテンや各種イベント等での啓発ができています。
今後の方向性	今後は各種啓発のほか、再生可能エネルギー導入促進のため事業化支援の検討を行う。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.54)				
予算等事業名	公害防止対策事業							
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。							
内容	・騒音・大気測定							
根拠法令・条例等	環境基本法、大気汚染防止法、騒音規制法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、二宮町環境基本条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		基本的に定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		基本的に定点での同一調査項目を継続的に測定しないと環境状況の変化を把握できないため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 継続的な騒音測定・大気測定により、町の環境状況を把握できている。 28年は1月に大気・騒音測定を実施する予定である。				

総合評価

実績	町内6箇所で騒音測定と一酸化炭素濃度測定を実施した。一酸化炭素濃度測定においては、6検体すべて環境基準値内であった。騒音測定においては12検体中3検体が環境基準値を超えたが、要請限度値以下であった。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	環境基準達成率(測定値が環境基準地内の測定検体数/測定検体数)				
中期(28年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より	
	83%				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		500	500				
財源内訳	一般財源	500	500				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境を保全するため、環境調査を実施することは必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 住民の健康保護及び生活環境に直結するため、実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 原則、同じ地点で環境調査を実施することで、町内の大気、騒音状況を把握することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 見積合わせを実施し、業者を選定している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 大気騒音測定を実施した結果、県道、国道において一部環境基準を超える値が検出されたものの要請限度値を超えるものではなく、環境状況の把握のため、今後も継続して測定することにより、経過を観察することが必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も継続して測定することにより、経過を観察する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	一酸化炭素濃度測定については、環境基準値を超えることが考えられないと環境審議会で見解があったので、見直しを行う。		
今後の方向性	効率性や経済性に配慮し測定項目及び測定場所の検討を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.54)				
予算等事業名	美化推進事業							
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。							
内容	・地域美化清掃の実施							
根拠法令・条例等	二宮町環境基本条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		地域美化清掃は、傷害保険料やごみ袋等の必要最低限の費用で実施しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		地区、団体、個人による清掃活動であり、協議書提出の際のごみ袋の配布や排出時の調整に最低限の手続きが必要となるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 地域美化清掃の支援により、生活環境向上が図られている				

総合評価

実績	56件の地域美化清掃が行われた。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	地域美化清掃件数				
中期(28年度)目標値	60件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境基本計画実施計画より	
	56件				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		200	192				
財源内訳	一般財源	200	192				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	
	【説明】 快適な生活環境の向上のため必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 主体は住民であるが、ごみ袋の配布や回収など支援については町が主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 地区へ地域清掃実施を呼びかけ、美化清掃に係る費用は、ごみ袋、保険費用のみで実施をしている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 地域清掃により、環境美化が図られている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 地域の主体性を尊重し、支援を行うことで、地域を自分たちで清掃するという意識が清掃件数からも高まっていると考える。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も地域美化環境向上のため、ごみ袋の配布など町からの支援を継続していく必要がある。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	地域やボランティアによる清掃活動が継続的に行われており、町の美化向上が図られている。
今後の方向性	今後も地域美化環境向上のため、ごみ袋の配布など町からの支援を継続する。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課											
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり										
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	地球環境保全事業(No.54)										
予算等事業名	再生可能エネルギー導入の検討													
目的	低炭素社会の実現をめざし、省エネルギー・自然エネルギーの推進を図るため、啓発や支援を行う。また、二宮町の特徴である空気が綺麗で風通しの良い快適な生活環境向上を図るため騒音大気測定や地域美化清掃の推進を図る。													
内容	・可能性の検討													
根拠法令・条例等	地球温暖化対策の推進に関する法律 二宮町環境基本条例													
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 計画どおりに進捗している		② 計画より遅れている		③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 削減は困難		
理由		今年度中に可能性検討の取り纏めを行うことにより、委員会費用の削減が見込める			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	① 検討できる		② 効率化は困難		
理由		可能性検討の結果により、来年度以降は新たな業務が生じる可能性があるため			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 地球温暖化対策検討委員会により町の再生可能エネルギーの導入可能性を検討することができている。				

総合評価

実績	地球温暖化対策検討委員会において、「二宮町における再生可能エネルギー導入の可能性(適性)」と「再生可能エネルギー導入を含めた地方公共団体実行計画(区域施策編)の策定」について検討し、検討結果をとりまとめた。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	エネルギー・温暖化対策に関する計画を策定する(100%)				
中期(28年度)目標値	100%			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計画策定 ※二宮町地球温暖化対策実行計画の策定	
	100%				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		120	90				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき計画を策定する必要があるため	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき計画を策定する必要があるため	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 二宮町地球温暖化対策実行計画を策定できたため	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 職員が実行計画の策定を行うことで、最低限の費用で評価等を行っているため	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 二宮町地球温暖化対策実行計画を策定することができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	再生可能エネルギー導入の可能性(適性)については、課題はあるものの、太陽光発電・太陽熱利用に限り、可能性はある。町民一人ひとりができる温暖化対策が必要となるため、環境教育等によって温暖化対策の意識付けを行う等、基盤づくりしていく。 再生可能エネルギー導入を含めた地方公共団体実行計画(区域施策編)の策定については、総合的な計画であり、現状での策定は難しいと思われるため、町民理解のための基盤づくりを優先的に行った上で、今後の状況に応じて再度検討する。 民間事業者による再生可能エネルギー事業の導入促進に向けた支援策等については、地球温暖化対策検討委員会の検討結果を踏まえ、温暖化対策事業化実施研究会で検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	地球温暖化対策実行計画事務事業編の策定を行った。		
今後の方向性	実行計画の着実な推進と進行管理を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.91)				
予算等事業名	環境衛生センター維持管理経費							
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。							
内容	・維持・管理							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		日常において省エネを意識し、費用を抑えて維持管理している。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		施設の維持に必要な最低限の管理運営を行っている。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 施設は老朽化しているが管理運営は適切に実施できている。			

総合評価

実績	環境衛生センターの適正な運営及び維持管理ができた。			
中間評価との相違点	—			
事業指標(数値指標)	—			
中期(28年度)目標値	—			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	環境衛生センターの適正な運営及び維持管理
	—			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		16,297	12,735				
財源内訳	一般財源	16,291	12,729				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	6	6				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 環境衛生センターは、し尿処理施設、浸出水処理施設、持込みごみの受入別場所からなっている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 上記施設からなっており、町主体となって実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 し尿処理、浸出水処理、持込みごみ受入分別、全体を円滑に管理運営している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 維持管理に必要な経費であり、消耗品の節約や節電等を心がけている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 し尿処理、浸出水処理、持込みごみ受入分別作業の全体の管理運営には必要不可欠な事業である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	し尿処理施設の改修をふまえた中で、計画的に補修、交換、工事等を行うとともに、引き続き節約・節電に心がけ、施設の適正な維持管理を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	ごみ処理施設の管理運営上事務所の維持管理が必要であるため。		
今後の方向性	今後も適正な施設運営のため事務所の維持管理を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 生活環境課					
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	広域行政推進事業(No.93)				
予算等事業名	ごみ処理広域化の推進							
目的	広域的な行政施策や取組みを必要とする行政課題等の情報交換及び連絡調整を図り、広域行政を推進する。							
内容	・ごみ処理広域化実施計画の推進							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	ごみ処理広域化の推進にあたり、事務局要員として平塚市への出向職員が必要となるため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	広域処理の開始や施設稼働に伴い協議を要する案件は減少させているが、現在、整備中のリサイクルセンターや、運用開始に伴う新たな課題対応には必要最低限の調整が必要となるため。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 広域ブロックによるごみ処理広域化により、広域的な行政施策や行政課題等に対する情報交換及び連絡調整が図られている。		

総合評価

実績	1市2町ごみ処理広域化推進会議(推進会議4回、検討部会8回、連絡会議1回)を開催し、実施計画の推進を行った。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	—				
中期(28年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実施計画の推進	
	—				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費							
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制を確立するために必要な事業である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 自治体間による協力が必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 広域処理を開始した。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 今後の広域処理施設の建設、運営についての検討している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、事業推進を行った。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	安定的な広域処理のため、平塚市及び大磯町と必要且つ十分な連絡調整を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	1市2町によるごみ処理広域化により、ごみ処理の体制が整備されている。		
今後の方向性	安定的、経済的なごみ処理体制確立のため、ごみ処理広域化推進会議等を通じ連絡調整を行う。		